

平成26年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	外国史(Foreign History)		授業コード	K000151
担当教員名	甘利 弘樹		科目ナンバリングコード	K10701
配当学年	2	開講期	後期	
必修・選択区分	必修	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	1年次の教職科目全単位や、卒業要件の1年次の取得単位数50単位のうち40単位を取得していることを望みます。遅刻する人、無断欠席する人など、マナーを守れない人は履修しないでください。			
受講心得	授業には必ず出席すること。本授業はあくまでも教職科目です。そのため、教員養成を前提に授業をしますから、時間厳守・連絡徹底など、社会人としてのマナーを求めます。約束事やルールを守れない学生は、評価の対象外とします。			
教科書	特定の教科書を購入・準備する必要はありません。板書・プリントを用いて授業をします。			
参考文献及び指定図書	授業中に指示します。			
関連科目	教職関連科目			

授業の目的	本授業は、中学校社会科免許取得の必修科目であることから、「中学校学習指導要領」に基づき、かつ社会科(歴史的分野)を教授していくために必要な知識を身に付け、実践してもらいます。そして中学校社会科の範囲における国家・地域や時代を学びながら、特に諸外国の歴史について理解し、知識を持つことによって、社会科教員としての資質能力を高めることが大きな目的です。
授業の概要	中学校社会科の範囲における世界の歴史について考察します。2008年に告示された最新の「中学校学習指導要領」では、我が国の歴史の背景となる世界の歴史の扱いの充実が求められています。さらに我が国の歴史の展開を、世界の歴史と一層関連づけて学習するようになっていることから、授業方法も従来と異なる多様なものが必要となっています。本授業では、より有効な歴史の授業を行うために、我が国の歴史に深く関わった世界の動きを整理・分析し、併せて斬新かつ効果的とされる授業方法について考えていきます。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：オリエンテーション 外国史の意義、中学校学習指導要領の内容、授業の進め方など教員になることの職業意識について説明します。	必要に応じて宿題を出します
第2週：世界の古代文明 中国の文明を中心に、古代の諸文明の特色について解説します。	必要に応じて宿題を出します
第3週：古代の日本と東アジア世界 大和朝廷成立期～平安時代の日本と東アジア諸国との交流について解説します。	必要に応じて宿題を出します
第4週：中世の日本と東アジア世界 鎌倉時代～戦国時代の日本と東アジア諸国との関係を、さまざまトピックをもとに解説します。	必要に応じて宿題を出します
第5週：日本へのヨーロッパ人来航とその背景 ヨーロッパ人による新航路の開拓、ルネサンス、宗教改革について解説します。	必要に応じて宿題を出します
第6週：近世初期における日本の対外関係 織田・豊臣による統一事業の時期から江戸幕府成立期までの日本と世界の関わりについて解説します。	必要に応じて宿題を出します
第7週：ヨーロッパにおける近代社会の形成 イギリスを中心にヨーロッパで起こった市民革命・産業革命について解説します。	必要に応じて宿題を出します
第8週：アメリカの台頭 植民地時代～南北戦争期におけるアメリカの政治・経済・文化について解説します。	必要に応じて宿題を出します
第9週：欧米諸国のアジア進出	

ヨーロッパ諸国・アメリカの対外進出と、それに対するアジア諸国の対応・変容について解説します。		必要に応じて宿題を出します
第10週：世界史上の日清・日露戦争 日清・日露戦争を、世界史的観点から捉えつつ解説します。		必要に応じて宿題を出します
第11週：近代の日本と中国・朝鮮 19世紀後半～20世紀初頭における日本・中国・朝鮮三国の関係の変化について解説します。		必要に応じて宿題を出します
第12週：第一次世界大戦期の世界 第一次世界大戦の背景・展開について、当時の国際情勢をふまえながら解説します。		必要に応じて宿題を出します
第13週：戦間期のヨーロッパ・アメリカ・アジア 第一次世界大戦後に起こった世界的な経済変動・社会変動について解説します。		必要に応じて宿題を出します
第14週：第二次世界大戦の惨禍 第二次世界大戦の展開過程について、ヨーロッパ・アジアの情勢を中心に解説します。		必要に応じて宿題を出します
第15週：戦後の国際関係 冷戦時代とその終結など、20世紀後半の国際社会について解説します。		必要に応じて宿題を出します
第16週：期末試験		
授業の運営方法	(1) 授業の形式	「講義形式」
	(2) 複数担当の場合の方式	
	(3) アクティブ・ラーニング	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	歴史学・歴史教育に対する関心・意欲を高めた上で、教員として使命を持って授業を担当できる態度を形成する。
【知識・理解】	中学校社会科の授業を遂行するために必要な世界の歴史の知識を身に付けている。 世界の歴史を教授するために必要な授業方法を理解している。
【技能・表現・コミュニケーション】	教材となる様々な資料を適切に収集・分析し、有効な歴史の授業を実施できる。
【思考・判断・創造】	世界の歴史を多面的・多角的視点から教授できるようになるとともに、より効果的な授業を行うための工夫ができる。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		10点		
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	60点	10点		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		10点		
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		10点		
(「人間力」について) ※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	原則として毎回の授業の最後に、習得した知識・考え方等を小レポートにまとめ、提出してもらいます。本レポートによって出席に代えるとともに、中学校社会科の授業を遂行するために必要な能力・姿勢が形成されたかをみます。
発表・その他 (無形成果)	授業中に担当教員から出された質問に対して、優れた回答をした学生には、相応の加点をすることがあります。